

# 養蜂振興法に基づき、飼育届の提出が必要です

ミツバチの飼育者は、毎年1月中に、飼育届を住所地の都道府県に提出してください。  
(手数料はかかりません。)



## 届出が必要な方

ミツバチの種類(セイヨウミツバチ・ニホンミツバチ)、業であるか趣味であるかは関係なく、一部を除きすべての飼育者が対象です。

愛媛県の場合は、住所地の市町を經由して提出していただいております。

届出についての詳細は、最寄の地方局へお問い合わせいただくか、県ホームページを御覧下さい。

## 届出が不要な方

・花粉交配用に使用する目的のみでミツバチを飼育される方。

〔花粉交配に必要な群数のミツバチを、花粉交配に必要な期間(数週間～数ヶ月間)のみ、一時的に飼育する方で、はちみつ・ミツバチ等を販売されていない方に限ります。〕

・巣箱や巣洞等を設置しないで、野生のミツバチの自然巣から、はちみつ等を採取するだけの方。

ミツバチの適切な管理をお願いします。

ミツバチの飼育を止めるときも、放置せず、適切な処置をお願いします。



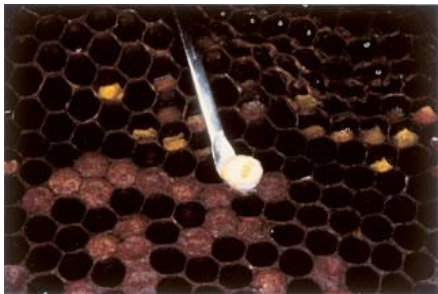
- ・適切な衛生管理をお願いします。
- ・異常があれば、最寄の家畜保健衛生所に相談してください。

腐蛆病(ふそびょう)には特に注意してください！

腐蛆病は、ミツバチの伝染病で、ミツバチの疾病の中で最も大きな被害をもたらします。黒ずんで内側に陥没した有蓋巣房(アメリカ腐蛆病)や、酸臭や醜酵臭(ヨーロッパ腐蛆病)があった場合は要注意です。



アメリカ腐蛆病<sup>1)</sup>



ヨーロッパ腐蛆病<sup>1)</sup>

○その他の主な病気



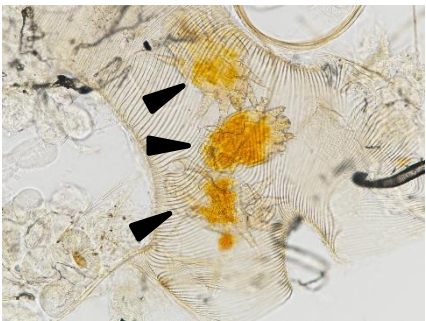
チョーク病<sup>1)</sup>

真菌(カビ)の1種によって引き起こされます。巣門や巣箱の底にミイラ化したチョーク状の蜂児が見えた時は感染が広がっていると考えられます。



ノゼマ症<sup>1)</sup>

ノゼマ原虫によって引き起こされます。寄生を受けた働き蜂は下痢のような症状が現れるため、巣箱の内外が糞で過剰に汚れたり、巣門付近で死亡している蜂がいた場合、感染が疑われます。



アカリンドニ症<sup>2)</sup>

アカリンドニ(矢頭)の寄生によって引き起こされます。ダニが成蜂の気管に寄生感染しますが、無症状のことが多く、重度に寄生すると、飛翔不能などの症状が見られます。

バロア症(写真なし)

(ダニの寄生による)

写真出典 1)一般社団法人日本養蜂協会 2)R5南予家保提供

窓 口	担当係	電 話
(届出) 各地方局農業振興課	農業振興係	【東予】0898-68-7322 【中予】089-909-8761 【南予】0895-28-6145
(衛生管理) 各家畜保健衛生所	家畜防疫グループ	【東予】0897-57-9122 【中予】089-990-1333 【南予】0894-62-0026

届出について(様式がダウンロードできます)

愛媛県庁ホームページURL: <http://www.pref.ehime.jp/>、二次元コード→  
申請書等ダウンロード > 組織別一覧 > 畜産課 > 養蜂振興法関係

